

今回は、11月6日に実施した小学部の全校授業研究会について紹介します。



## <小学部3年 生活単元学習

「にこにこダンスタイム～もったいないばあさん音頭～」>

**本時の目標** ・にこにこポイント（気を付けること）が分かって、招待状づくりをする。

### 授業者からの授業説明

「にこにこダンスタイム」は通年で行っている授業。3年生は体を動かすことが好きなので、ダンス活動を通して体の動かし方や部位の名前、集団で活動することのよさや集団活動のきまりを守ることを身に付けてほしいと考え単元を構成した。「もったいないばあさん音頭」は子どもたちの好きな絵本の内容が基になっている。今回は楽しみにしているダンスの発表会に招待する相手への招待状づくりを行った。

### 授業研究会での主な協議内容と改善案

参観者は、以下の視点で授業を参観しました。

小学部の「目指す児童の姿」「課題を発見する姿」に着目した授業改善の観点

- ①めあてを意識して自分から学習に向かい、自分なりにめあてを達成しようとしているか。
- ②学習を通してできたこと、頑張ったことを言葉や身振り、カード等で表現しているか。

※グループ協議より（○成果 ●課題）

#### 【Bグループ】

- 先生方が落ち着いていた。子どもたちは、活動が分かって取り組んでいた。近くにあった絵カードの手立てがしっかりしていた。
- めあての「にこにこ」について、どうしたら相手がにこにこになるのかというところをしっかりと押さえて、導入のところで確認するとよかった。
- 「もったいない」「にこにこ」のキーワードをうまく使いながらよかったところを出して、次の時間のモチベーションにつながる振り返りとなるとよかった。

#### 【Iグループ】

- 児童の実態に合わせた活動や手立て、繰り返しの活動が子どもに定着していた。
- 学習の履歴が分かる掲示物がよかった。
- 今回のめあてが「K先生をにこにこにさせるしょうたいじょうをつくろう」だったので、K先生の写真を出して「K先生がにこにこになる招待状できたね」と振り返ってもよかったのでは。また、直接K先生に招待状を持って行って、K先生の実際の反応を見るのも子どもたちの意欲につながるのではないか。
- 振り返りの方法としては、子どもたち自身が発表するときの手掛かりになるような掲示を準備することで、自分で選んで振り返りの発表をすることができるようではないか。

## 指導助言【教頭 稲川一男先生】

□「にこにこポイント」を子どもたちに意識させるために

教師が教えるべきところと教師が子どもに気付かせたいところがある。はさみの使い方や持ち方は教師が教えるべきところ。線の上をきれいに切りたい、白い部分を少なく切りたいなどは、子どもたちがはさみを使って初めて気が付くところ。そういうところを子どもに気付かせて、それが「にこにこポイントだね」という形で押さえていけるとよい。

□振り返りについて

○×を選ぶだけでなく、文字を大きくしている写真と小さくしている写真を出して、○と×と分かるように書いていた。子どもたちが選びやすい工夫がされていた。また、「むずかしかった」「たのしかった」「またやりたい」と振り返りの選択肢が三つあった。小山先生が二つを選んでそこから子どもたちが選んでいたが、「またやりたい」を選んでいる子どももいて、次につながる振り返りの工夫をしていた。

今回は一人ずつ振り返りをしている。他の子どもは一人が発表しているときにはずっと見ていたり、友達を選んで発表しているのを聞いたりする活動で、選んでいる時間はただ待っているだけだった。共同で1枚の招待状を作るので、「線の上を上手く切れていた」とか、「曲がらずに貼れていた」とか、友達同士の他者評価があるとよい。他者評価する機会を徐々に積み重ねていけば、人との関わりが増えてくるのではないかな。

教壇に立ったら、教師は一人の役者。子どもを乗せるためには、表情豊かに大げさなりアクションをすることが必要。思いっきり泣きまねをする、大げさに笑うなどすると、それが子どもたちの活動意欲につながっていく。

## 外部参観者より ※抜粋

- ・ 本時の目標、個別の目標、めあてがぶれなくつながっている授業だと感じた。そのための先生方の支援の言葉掛けや教材の準備、工夫等細かな配慮が随所に見られた。本校の特別支援学級の児童のみならず、他の児童においてもその子に合った関わり方やねらいを達成させるための手立てや準備、工夫は必要であり、とても勉強になった。
- ・ 児童へのいろいろな配慮があり、先生方が穏やかに落ち着いた対応をされていたことを小学部の先生方から伺った。たくさんの参観者がいる中、自分たちの活動を一人一人頑張っていて驚いた。

